

中濃農林事務所（4月）の普及活動状況

今月の重点活動

■さつまいも 最適な施肥量検証のための実証ほ場の設置

中濃地域では、さつまいもの産地化を目指して、「JAめぐみのさつまいも生産組合」を設立し、栽培技術の向上や販路の拡大や取り組んでいる。

さつまいもは窒素分が多いと蔓ぼけしやすいといわれており、生産者は施肥を抑える傾向にあり、地域における適切な施肥量が明確になっていない。そのため、今年度は、最適な施肥量を検証するための現

地実証を行うこととし、4月22日に施肥量の異なる3つの実証区を設置した。今後、4月末に植付し、10月に収穫を迎える予定である。

農業普及課では今後、実証ほ場の生育および収量調査等を行うとともに、各ほ場の地力窒素の測定を行い、ほ場条件による適切な施肥量を検討し、地域の生産者の栽培技術の向上を支援していく。

(地域支援係)



【実証ほにおける施肥の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者研修施設 研修修了式と入所式

4月8日JAめぐみの本店において、JAめぐみのが運営する新規就農者研修施設の修了式、入所式が執り行われた。施設はJAめぐみの管内に2カ所設けられ、中濃農林事務所管内には関市に「地域振興作物栽培実証圃場」として研修を行っている。もう1カ所は郡上市で「郡上トマトの学校」として運営されている。

当日は研修を修了する2人の新規就農者から研修で学んだことと就農後の目標について発表があり、続いて新しく入所する2人の研修生から農業に対する抱負についてあいさつがあった。

農林事務所から就農者、研修生に対し、地域の農業の担い手として期待していること、JAめぐみとの連携して栽培技術、経営管理指導を行い、営農計画の実現をサポートしていくことをあいさつした。

(地域支援係)



【実証圃場研修報告】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■小麦 良質な小麦生産に向けて

中濃地域では、営農組織や個人農家等が約200haで小麦を栽培している。昨年10月下旬は晴天に恵まれ播種作業が順調に進み、また、2～3月は気温の高い日が続いたことから、生育は平年より早まり、4月上旬に出穂期を迎える圃場が多くなっている。

農業普及課では、赤かび病の適期防除を支援するため、JAと連携して4月2日と16日に出穂および開花状況を確認した。赤かび病の徹底防除のため、1回目の防除は出穂7～10日後の4月中旬から始まり、2回目は1回目の7～10日後に実施された。今後は出穂期と積算温度から算出される収穫適期日について生産者へ情報提供を行い、良質な小麦生産を支援していく。

(地域支援係)



【開花状況調査の様子】